

さとう ゆみ

3月 議会報告

No.8 2013年4月

〒480-1157
長久手市桜作708
Tel&Fax 0561-76-7811

E-mail: info@satoyumi.net

ブログ「きらめく未来づくり日記」日々更新中
http://ameblo.jp/satoyumi-nagakute/



無党派・市民派

さとうゆみ議会報告会

5月11日(土)
6月1日(土) } 14時～16時
7月13日(土) } 長久手交流プラザ

市民からは批判の声 今年4月から議員報酬引き上げへ

突然、市長が議員報酬引き下げの議案を撤回!

市長は、今年開催された「特別職報酬等審議会」が議員報酬を引き下げるべきと答申したことを受けて、議員報酬引き下げの議案を3月議会に出しました。この審議会は、市長が第三者の意見を参考として聞くために設置するもので、公募市民2人や学識経験者、市内の団体の代表など9人の委員で構成されていました。

本会議の質疑で、議員から「議員を軽視しているのではないか」「今回報酬審議会を開く必要があったのか」「議会と対立したいのか」などと報酬引き下げに異論があるとみられる発言がありました。数日後市長は質疑で様々な議員から批判を受けたことや、議員報酬の議案を市長が出すことに抵抗感を持っていたという理由により、議員報酬引き下げの議案を撤回すると表明しました。市長が議案を撤回することについての採決を行い、賛成の議員10人、反対の議員9人という僅差で撤回が許可されました。市民に不利益があるなど特別な理由がある場合を除き、市長が議会に出した議案を撤回するということは、無責任ではしないと私は考えます。

議員報酬を増額しない議案は否決!

1年前の議会で、条例上の議員報酬月額を大幅に増額する議案が賛成多数により可決され、ただし平成24年度に限り増額した金額から10%カットした額(32万5,800円)を実際の報酬額とすることとしました。

今回、市長が議員報酬の議案を撤回したため、何もしないまま3月議会が終わると、今年4月以降は条例上の満額(36万2,000円)まで上がります。市長は「本来議会側で議論し議案提案すべきもの」と議会側に判断をゆだねましたが、議員の中では議論が進みませんでした。そのような状況下で、今年4月から議員報酬を増額すべきではないと私は考え、平成25年度も10%カットを継続し、議員報酬を増額しない議案をじんの議員とともに提出しました。採決の結果、議員報酬を増額しないことに賛成の議員は5人、反対の議員は14人で否決されました。これにより、今年4月から議員報酬が引き上げられましたが、私は市民の理解を得られるものではないと考えます。一方、市長、副市長の給料を引き下げる議案は、賛成多数にて可決されました。

議員報酬月額の状況	平成24年度	平成25年度以降	
	条例上(1年前の議会で可決)	36万2,000円	36万2,000円
	実際の報酬額	32万5,800円	36万2,000円
	撤回された市長案	条例額より10%減	32万6,000円
	今議会に議員提案した案		32万5,800円

※平成23年度の議員報酬月額が29万7,000円
※条例上の報酬月額は、議長48万8,000円、副議長42万3,000円

さとうゆみは1年前の議会で、市制施行後直ちに議員報酬を増額すべきではないとして、議員報酬を引き上げる議案に反対しました。この1年間、市制施行前の報酬額を超えた額は別口座に積み立てをしてきましたが、引き続き今年度も続けていきます。

さとうゆみが出したこの案は反対多数で否決

- 5人 10%カットの継続に賛成の議員
さとうゆみ(無党派)
じんの和子、浅井たつお(以上長久手市民くらぶ)
田崎あきひさ、吉田ひでき(以上無党派)
- 14人 10%カットの継続に反対の議員
佐野尚人、川本勝幸、すえ規代、正木祥豊、水野竹芳(以上行政改革クラブ)
川合保生、加藤和男、丹羽茂雄(以上政策グループ「楓」)
水野とみ子、木村さゆり(以上公明党)
青山直道、岡崎つよし(以上「創」)
加藤武(長久手市民くらぶ)、原田秀俊(無党派)(敬称略)

公園西駅の土地区画整理事業はリスクが大きいのでは?

市は、リニモ公園西駅周辺約20.6ヘクタールで区画整理事業を行うとしています。事業費49億1,000万円のうち市の負担は19億3,700万円(全体の39.45%)としていますが、この事業費に市職員を配置する人件費は含まれておらず、これまで市が負担した関連経費約1億5,000万円も含まれていません。

当初の事業計画にはなかった立体横断施設を造る費用約5億円が急に事業費に加算されたことも驚きです。また、駅のすぐ南側には推定活断層があるという問題もあります。今後市が背負うリスクが大きいと考え、私は「平成25年度公園西駅周辺土地区画整理事業特別会計予算」に反対しました。

平成25年度の市の予算 中身は?

一般会計予算 156億8,000万円(前年度比1%減)

- 幸福度指標調査 ※250万円 → 市民と行政が共有できる新たな指標づくりに取り組むとのこと
- リニモ出資金 ※2億8,100万円 → これとは別に市が銀行から借りてリニモ会社に貸し付けたお金(転貸債)が経営難により戻らず、肩代わりして約4億円を返済
- オーストラリア視察研修 ※776万円
→ 福祉の先進事例があるとして市職員3人と市民が海外視察へ
- 民間保育園事業 ※1億44万5,000円
→ 市の認可保育園となる民間保育園は、平成25年4月開園のほが6月に
- 児童館併設型保育園建設(市が洞地区) ※4億400万円
→ 市内に児童館併設型の保育園はありませんが、なぜここは…?
- 長久手中央土地区画整理事業助成金 ※4億円
→ 市内の区画整理事業への支出が増加

さとうゆみ一般質問で取り組んだ「老朽化した小中学校のトイレの大規模改修を」「西小学校区に児童クラブの設置を」「市役所に手話通訳者の設置を」は予算化され、平成25年度に実現します。

予算書に空白にして金額を隠すのはなぜ？ 委託料と工事請負費の金額を記載せよ

- Q 全国的にも委託料と工事請負費の金額を載せない予算書がほとんどないのは、影響がないということだと思うが、長久手市はなぜ委託料と工事請負費の金額を空白にするのか。
- A 総務部長 予定価格は事前公表しており、委託料と工事請負費の金額を空白にする説明がつかなくなっているのので、公表に向けて検討する。
- Q 平成26年度の予算書は入れる方向か。
- A 総務部長 そのつもりで検討する。
- Q 予算編成過程の公開を行うつもりはあるか。
- A 総務部長 未確定段階での公開は混乱を招くので、実施の考えはない。

このままでいいの？

ペットボトル店頭回収業務の見直しを

- Q コンビニに設置している市のペットボトル回収箱には、キャップやラベルがついたままのものや、たばこの吸い殻などの異物が入ったものが多く捨てられている。リサイクルを目的に市が回収していると認識されているか。
- A 市民生活部長 回収箱に市のマークがついているので、理解してもらっていると思う。
- Q 市の回収箱がないコンビニは、お金を払って業者に回収してもらっているのに対し、回収箱があるコンビニでは市が回収するのは、おかしいのではないか。
- A 市民生活部長 ボックスを撤去してもよいというお店もあり、お店と協議して慎重に対応していきたい。
- Q 回収箱をコンビニに置くのではなく、各地区にある公共施設へ移設してはどうか。
- A 市民生活部長 単なるごみ箱と同じ状態になってはいけないので、慎重に検討したい。

たんぽぽ教室に 毎回臨床心理士の配置を

- Q 市制施行前は、「たんぽぽ教室」に県から臨床心理士などの発達の専門家が派遣されていたが、市になると派遣が打ち切られた。平成24年度は、市費で補充すべきではなかったのか。
- A 保健医療課長 市になり「家庭児童相談室」ができたので連携をとるべきだったが、平成24年度は保健師と保育士で対応し、予算計上をしなかった。
- Q 平成25年度は臨床心理士を年12回配置する予算を計上したということだが、「たんぽぽ教室」は年24回あり、毎回配置するべきではないか。
- A 福祉部長 1回当たりの平均参加者数が6人程度であり、1クール6回の中で対応できる配置と考えている。
- Q 「たんぽぽ教室」の後のフォローをする「すぎのこ教室」に平成24年度から臨床心理士と言語聴覚士、作業療法士が月1回配置された。どれもフル活用されているが、平成25年度は作業療法士のための拡大で十分か。
- A 福祉部長 平成25年度はひとまずこの体制でいきたい。

さとうゆみの考え

長久手市の予算書には、各事業の委託料と工事請負費の金額が載っていません。全国的にもこのような予算書は珍しく、時代遅れと言えます。市の事業は税金を使用して行うため、どの事業にどの程度の金額を配分するのか市民に知らせる必要があり、予算書に金額を載せていないことは問題です。「次の予算書からは金額を入れるつもりで検討する」との答弁でしたので、平成26年度の予算書からは金額が記載されるものと思います。そうなれば、議員が予算を審議する際にも、より深い議論ができるはずです。

情報開示の進んでいるまちでは、予算編成過程を公開しています。「長久手市では実施の考えはない」と後ろ向きの答弁でしたが、市長は情報公開の推進を掲げているため、完成したものだけを見せるのではなく、予算編成過程も市民に公開する姿勢を持つべきだと考えます。

さとうゆみの考え

市民が各地区で気軽に出せるようにと、市は平成10年からペットボトルの店頭回収を実施しています。現在、市内のコンビニエンスストアやスーパーなど13店舗に市の回収箱が設置されています。平成24年3月の予算委員会などで、私が回収箱に入れられているペットボトルの状態がよくないことを指摘したところ、環境課が実態調査を行いました。その結果、特にコンビニエンスストアでは、適切な排出（キャップ・ラベルがはずれている）の割合が極めて低く、タバコの吸い殻などの異物混入も見られました。

コンビニエンスストアに設置された市のペットボトル回収箱の中には、単なるごみ箱となっているところがあります。リサイクル目的からかけ離れた状態のペットボトルを、市が回収するのは問題です。リサイクル不可のペットボトルは、中間業者から市に戻され手間がかかります。回収箱を各地区の公共施設に移設するなど、現状を変えるための工夫が求められます。

さとうゆみの考え

市は、1歳6カ月児健診と3歳児健診で、様子をみた方がよいとされた子どもやその保護者を対象に、相談、助言を行うことを目的として「たんぽぽ教室」を開催しています。長久手が町のときは、県から派遣された臨床心理士などの発達の専門家が「たんぽぽ教室」に入っていました。市になると派遣は打ち切れ、平成24年度は保健師と保育士のみで対応していました。市は「たんぽぽ教室」を、母子保健事業体系の幼児健診事後指導の場と位置付けているため、発達の専門家が関わることが不可欠だと考えます。平成25年度は、年12回臨床心理士が配置されることになりました。

障がい児通園施設「すぎの子教室」は、平成23年度まで保育士のみで対応していましたが、平成24年度から臨床心理士、言語聴覚士、作業療法士が配置されています。平成24年度は、どれもフル活用されており、少し先でないとい予約がとれない状況なので、支援体制をさらに充実させていくことが必要だと考えます。

🐦 議会の傍聴にお越しください。

♥ 6月議会一般質問

▶ 6/11(火) ▶ 12(水) ▶ 13(木)